

『鳴滝紀要』目録 (著者敬称等略)

号	刊行年	論 文 名 (著訳者)	価格
31	2021年	○関口忠志氏を偲んで(石山 禎一) ○ハルメン・ボイケルス氏を悼む(織田 毅) ○江戸滞在中のオランダ商館長ドゥ・ステュルレルとシーボルトの関係 (2) ードゥ・ステュルレル「江戸参府日記」に基づく諸考察を中心にー (梶 輝行) ○アレクサンダー・フォン・シーボルト『東亜政論——1898年7月から1900年9月まで——』(1)(堅田智子) ○報告 横山家資料の寄贈について(織田 毅)	1,300円
30	2020年	○シーボルト記念館所蔵泉屋家文書「脇荷貿易品史料」について(石田千尋) ○江戸滞在中のオランダ商館長ドゥ・ステュルレルとシーボルトの関係 (1)ードゥ・ステュルレル「江戸参府日記」に基づく諸考察を中心にー (梶 輝行) ○男爵アレクサンダー・フォン・シーボルト「公爵伊藤博文に関する個人的回想」(堅田智子) ○長崎通詞についてー史料にみる阿蘭陀通詞の実態ー(織田 毅) ○史料紹介 伊東昇迪「西游雑記」・石井信義「明治七年日記」(二)(織田 毅)	2,000円
29	2019年	○泉屋家旧蔵「オランダ語文法書」と志筑忠雄「助詞考」(大島明秀) ○ 男爵アレクサンダー・フォン・シーボルト「古き日本に関する回想 第2部——英国の旗の下に 1862年～1870年——」(2)(堅田智子) ○ 1830年12月、帰国したシーボルトへ其扇が送った最初の手紙(アーフケ・ファン＝エーヴァイク) ○ 史料紹介 伊東昇迪「寄陽日簿」ー翻刻及び註解ー(藤本健太郎・織田毅) ○ 特別展報告 高島秋帆の周辺ー系譜と晩年の活動を中心にー(織田毅)	1,500円
28	2018年	○ ミュンヘン五大陸博物館所蔵「鳴滝の家屋模型」に関するシーボルト自筆の記述について(宮坂正英) ○ 志筑忠雄「三種諸格」の資料的研究(大島明秀) ○ 男爵アレクサンダー・フォン・シーボルト「古き日本に関する回想 第2部——英国の旗の下に 1862年～1870年——」(1)(堅田智子) ○ 長崎東濱町井手禎蔵の日記と川原慶賀(野藤 妙) ○ 日高涼台研究序説ー主に牛痘法普及における業績についてー ○ 近世後期長崎における日雇の一側面ー「御書附写」にみる日雇の実相についてー ○ <オランダ通詞研究ノートIV> オランダ通詞西家史料について(織田 毅) ○ 史料紹介 I 伊東救庵「江戸御尋人高野長英私宅江立寄申一件」 ○ 史料紹介 II 石井信義「明治七年日記」(一)	1,700円
27	2017年	○ シーボルト編「日本植物目録」改訂稿について(下)(遠藤 正治、加藤 僊重、鳥井裕美子、松田 清) ○ 「シーボルトと北斎」ブランデンシュタイン城文書に確認する新出北斎6点から(マティ・フォラー) ○ シーボルト、ミヒャエリス、スクリバの明治一九年蝦夷見聞ー明治ドイツ人による蝦夷植民地化とアイヌ研究のまなざし(堅田 智子) ○ 【特別寄稿 研究レポート】シーボルト書簡の新発見ー発見の経緯とその意義(町田 明広) ○ 近世中後期における長崎・出島の労働者について(織田 毅)	1,400円
26	2016年	○ シーボルト編「日本植物目録」改訂稿について(上)(遠藤 正治、加藤 僊重、鳥井裕美子、松田 清) ○ シーボルト『NIPPON』出版研究序説ーライデンのシーボルト書店ー(フォラー邦子) ○ シーボルト門人伊東昇迪筆録にみる関係人物と使用薬剤(石山 禎一) ○ 楠本イネと石神良策の交友ー海軍軍医の祖と女性医師の魁ー(太田 妙子) ○ シーボルト再来日時鳴滝塾の建物について(野口 憲治、波多野純) ○ 明治期における楠本いね(織田 毅) ○ <オランダ通詞研究ノートIII> オランダ通詞菊谷藤太と幡崎鼎(織田 毅) ○ 資料紹介 伊東昇迪「悉勃兒都處治聞見録」(石山 禎一)	完売
25	2015年	○ シーボルト事件で流罪となった阿蘭陀通詞馬場為八郎(片桐 一男) ○ 阿蘭陀通詞家系図(VI)ー横山家ー(イサベル・田中・ファンダーレン) ○ 志筑忠雄とその言説(大島 明秀) ○ 幕末維新时期における楠本いね(織田 毅) ○ <研究ノート>シーボルトと佐野博洋(織田 毅) ○ 史料紹介 1「外科シーボルト一件」、2「Opstellen[和蘭文章]」	完売
24	2014年	○ シーボルト研究の創始者 呉秀三(宮坂正英) ○ 伊東昇迪「瓊海雑集」の紹介並びに翻刻(織田毅) ○ <オランダ通詞研究ノート2> 近世長崎における異文化交流とオランダ通詞ー中山作三郎とシーボルトの場合ー(織田毅) ○ 史料紹介「大里詰日録」(2)	1200円
23	2013年	○ シーボルトは富士山などを何時どのように測高したか(野村正雄) ○ 門人たちの染料に関する3つのオランダ語論文の翻刻と翻訳ーブランデンシュタイン家所蔵とボッホム大学図書館所蔵ー(野藤妙、石山禎一、宮崎克則) ○ <オランダ通詞研究ノート>オランダ通詞にみる長崎地役人の「立入」について(織田毅) ○ 史料紹介「大里詰日録」(1)	1,000円
22	2012年	○ 本木良永『世界四大洲新地図帳』付箋の解説ー泉屋家文書との関連においてー(下)(益満まを) ○ ブランデンシュタイン家所蔵シーボルト関連書簡の翻刻・翻訳によって得られた新知見について(宮坂正英、ベルント・ノイマン、石川光庸) ○ シーボルト記念館の古写真資料(扇浦正義) ○ 史料紹介 中山文庫「書留帳」(新畑末男) ○ 史料紹介 中山文庫「魯西亜滞船中日記」(5止)(織田毅)	1,000円
21	2011年	○ 本木良永『世界四大洲新地図帳』付箋の解説 泉屋家文書との関連において(上)(益満まを) ○ ブランデンシュタイン家所蔵、1825年、1828年、1830年シーボルト書簡の翻刻並びに翻訳(補遺2)(宮坂正英、ベルント・ノイマン、石川光庸) ○ シーボルトの子孫・楠本家伝来の短冊(若木太一、扇浦正義) ○ 史料紹介 中山文庫「魯西亜滞船中日記」(4)(織田毅)	1,000円
20	2010年	○ ブランデンシュタイン家所蔵、1825年、1826年シーボルト書簡の翻刻並びに翻訳(補遺1)(宮坂正英、ベルント・ノイマン、石	1,000円

		<p>川光庸)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日高涼台「異邦産論」について (吉田忠) ○ 日高家資料の翻刻 文芸資料を中心に (扇浦正義) ○ 史料紹介 中山文庫「魯西亜滞船中日記」(3) (織田毅) 	
19	2009年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北村元助と動植物学への貢献 (その二) (イサベル・田中・ファンダーレン) ○ フォン・ブランデンシュタイン家所蔵、1827-1829年シーボルト関係書簡の翻刻ならびに翻訳 (宮坂正英、ベルント・ノイマン、石川光庸) ○ 日高家資料の寄贈報告 (扇浦正義) 	1,000円
18	2008年	<ul style="list-style-type: none"> ○ フィレネウフェの花嫁 外国人女性の来航をめぐる日蘭の認識と交渉 (松井洋子) ○ 北村元助と動植物学への貢献 (その一) (イサベル・田中・ファンダーレン) ○ フォン・ブランデンシュタイン家所蔵、1826年シーボルト関係書簡の翻刻並びに翻訳 (宮坂正英、ベルント・ノイマン、石川光庸) ○ シーボルトの門人・交友者 (扇浦正義) ○ 史料紹介 中山文庫『魯西亜滞船中日記』(2) (織田毅) 	2,000円
17	2007年	<ul style="list-style-type: none"> ○ シーボルトと中津 (川島真人) ○ シーボルト記念館所蔵の「阿蘭陀草花鏡図」とその背景について (ミヒェル・ヴォルフガング) ○ シーボルト、ビュルガー、川原慶賀と日本の魚類学 (山口隆男) ○ 阿蘭陀通詞中山氏と庄内藩医中山氏 (片桐一男) ○ フォン・ブランデンシュタイン家所蔵、1825-1827年シーボルト関係書簡の翻刻ならびに翻訳 (宮坂正英、ベルント・ノイマン、石川光庸) ○ シーボルト記念館所蔵資料について (扇浦正義) ○ 資料紹介 中山文庫「魯西亜滞船中日記」(1) (織田毅) 	2,700円
16	2006年	<ul style="list-style-type: none"> ○ シーボルト記念館所蔵の眼科手術器具について—伊東昇迪がシーボルトから贈られた眼科内障機器— (山之内卯一) ○ 貿易都市長崎の祭り「長崎くんち」(本馬貞夫) ○ フォン・ブランデンシュタイン家所蔵、1824、1825年シーボルト関係書簡の翻刻並びに翻訳 (1) (宮坂正英、ベルント・ノイマン、石川光庸) ○ 研究ノート：新たに発見されたシーボルト鳴滝別荘に関する記述について—古賀十二郎著「シーボルト叢考」を中心に— (宮坂正英) ○ 中山文庫の阿蘭陀通詞分限帳について～天保九年及び天保十三年の分限帳を中心に～ (織田毅) ○ 『薬品応手録』の原本と写本 (扇浦正義) 	2,300円
15	2005年	<ul style="list-style-type: none"> ○ シーボルトに提供した日本人の報告資料—最上徳内の報告した『蜜蜂』資料の紹介によせて— (片桐一男) ○ アレクサンダー・フォン・シーボルト略年譜と日本政府との雇傭関係史料について (沓沢宣賢) ○ フォン・ブランデンシュタイン家所蔵、1823年シーボルト関係書簡の翻刻並びに翻訳 (3) (宮坂正英、ベルント・ノイマン、石川光庸) ○ 資料紹介 フォン・ブランデンシュタイン家所蔵文書 シーボルト自筆草稿『日本の自然と日本人の生きた姿』(石山禎一) 	2,500円
14	2004年	<ul style="list-style-type: none"> ○ シーボルトが作成したデータペーパー (標本整理紙) について (加藤偉重、和田浩志) ○ フォン・ブランデンシュタイン家所蔵、1823年シーボルト関係書簡の翻刻ならびに翻訳 (2) (宮坂正英、ベルント・ノイマン、石川光庸) ○ 中山文庫の異国船漂着関係資料について (3) —享和元年の事例を中心に— (徳永宏) 	2,000円
13	2003年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 『江戸番通詞江戸逗留中勤方書留』について (片桐一男) ○ 天文学関係蘭文断簡について (2) (吉田忠) ○ 外科資料蘭文断簡 その二 本木正栄の医書 (ハルメン・ボイケルス、相川忠臣) ○ シーボルト記念館所蔵泉屋家文書「オランダ船貿易品関係史料」について (石田千尋) ○ フォン・ブランデンシュタイン家所蔵、1823年シーボルト関係書簡の翻刻ならびに翻訳 (1) (宮坂正英、ベルント・ノイマン、石川光庸) ○ 資料紹介 フォン・ブランデンシュタイン家所蔵シーボルト関係文書「長崎近郊の鳴滝にある私の別荘」(石山禎一、徳永宏) 	2,800円
12	2002年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 天文学関係蘭文断簡について (上) (吉田忠) ○ シーボルト記念館所蔵の点眼筐の調査報告—伊東昇迪がシーボルトから贈られた点眼筐— (米田該典) ○ フォン・ブランデンシュタイン家所蔵、1822年シーボルト関係書簡の翻刻並びに翻訳 (2) (宮坂正英、ベルント・ノイマン、石川光庸) ○ シーボルトと日本の楽器—シーボルト著『日本』所収「楽器図」を中心に— (立田雅彦、徳永宏) 	2,200円
11	2001年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外科資料蘭文断簡 その一 外科問考 (ハルメン・ボイケルス、相川忠臣、中西啓) ○ 『広東出し船一件諸書留』について (片桐一男) ○ フォン・ブランデンシュタイン家所蔵、1822年シーボルト関係書簡の翻刻ならびに翻訳 (1) (宮坂正英、ベルント・ノイマン、石川光庸) ○ シーボルトのアイヌ・コレクション—ライデン国立民族学博物館所蔵品を中心に— (山崎幸治) 	2,100円
10	2000年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中野忠雄輯「三角算秘傳」について (小林龍彦) ○ 私信にみられるオランダ領東インド渡航前のシーボルトの動向について—ブランデンシュタイン家文書調査報告 (宮坂正英) ○ 資料紹介 シーボルト再渡来時の『日本植物観とライデン気候馴化園』(石山禎一、金箱裕美子) ○ 資料紹介 泉屋家文書について (中西啓) ○ 資料紹介 オランダ通詞本木氏の諸様相—庄左衛門正栄を中心に— (本馬貞夫) 	2,000円
9	1999年	<ul style="list-style-type: none"> ○ シーボルト事件判決時の法的根拠 (中西啓) ○ 江戸参府におけるカピタンの遣銀と阿蘭陀通詞 (片桐一男) ○ オランダ国立自然史博物館に収蔵されているシーボルト収集の鳥類及び哺乳類標本のリスト (武石全慈、佐々木浩、山口隆男) ○ ブランデンシュタイン家文書より発見された楠本タキ、イネ母子に関する断簡について (宮坂正英) ○ 伊東昇迪筆『悉勃児都處治聞見録』とシーボルト著『江戸参府紀行』の治療に関する記事について (永松実) 	完売
8	1998年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三瀬周三考 (三好昌文) ○ シーボルト・コレクションにみる麦わら細工 (松崎亜砂子) ○ シーボルトの和歌研究—ブランデンシュタイン家文書調査報告— (宮坂正英、ベルント・ノイマン、石川光庸) ○ 鳴滝塾の活動及び敷地と建物の変遷について (徳永宏) 	完売
7	1997年	<ul style="list-style-type: none"> ○ ミニチュア民族誌の構想—シーボルトがくれたアイディア— (近藤雅樹) ○ シーボルトと川原慶賀—『人物画帳』をめぐる— (小林淳一) ○ シーボルト Ph. F. von Siebold の日本追放解除に関する一考察 (梶 輝行) ○ シーボルトとロシアの対日開国政策 (3) —ブランデンシュタイン家文書調査報告— (宮坂正英、石川光庸、ベルント・ノイマン) 	1,500円

		○ 中山文庫の異国船漂着関係資料について (2) -安永元年の事例を中心に- (徳永宏)	
6	1996年	○ シーボルト父子略年譜稿 (向井晃) ○ 鳴滝塾敷地の旧蔵者と地積 (中西啓) ○ 医者としてのフィリップ・フランツ・フォン・シーボルト (ハルメン・ボイケルス) ○ 民族学博物館の効用とその設立の重要性に関する覚え書き フランス王立図書館部長ジョマールに宛てた書簡 (石山禎一) ○ シーボルトと日本の動物学 (山口隆男) ○ シーボルト渡来百年記念祭に関する一考察 外務省外交史料館所蔵史料を中心に (沓沢宣賢) ○ 蘭船コルネリス・ハウトマン号とシーボルト事件 オランダ商館長メイランの日記に基づく考察を中心に (梶 輝行) ○ 科学史の側面から再検討したフィリップ・フランツ・フォン・シーボルトの科学的活動 植民地学、ベーコンニアン科学、フンボルト科学とシーボルトの科学的活動との関係についての試論 (塚原東吾) ○ シーボルト一件通報書 (徳永宏)	完売
5	1995年	○ 佐々木元俊の翻訳書『蕃語象胥』について書誌学的検討 (石川光庸) ○ シーボルト事件の背景と間宮林蔵 私論「林蔵は密告していない」 (大谷恒彦) ○ 十九世紀日本人の風俗習慣 近年日本を訪れたオランダ人とドイツ人フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト博士の見聞に基づく (2) (梶 輝行、新井宏子) ○ シーボルトとロシアの対日開国政策 (二) ブランデンシュタイン家文書調査報告 (宮坂正英、石川光庸、ベルント・ノイマン) ○ 中山文庫の異国船漂着関係資料について 宝永元年の事例を中心に (徳永宏)	完売
4	1994年	○ 十九世紀日本人の風俗習慣 近代日本を訪れたオランダ人とドイツ人フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト博士の見聞に基づく (1) (梶 輝行、新井宏子) ○ フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト第二の日本コレクション (ウド・バイライス、〈訳〉宮坂正英) ○ 三瀬諸淵訳稿「国医論」(仮題) (中西啓) ○ シーボルトとロシアの対日開国政策 (1) ブランデンシュタイン家文書調査報告 (宮坂正英) ○ 資料紹介 シーボルト記念館楠本文庫 (2) 所収 英文書簡について (徳永宏)	完売
3	1993年	○ Ph・Fr・フォン・シーボルトが依頼された日本での課題と遺された文書からの答え (エバハルト・フリーゼ) ○ 通詞の社会史「阿蘭陀通詞」以前 (加藤榮一) ○ シーボルトの絵師川原慶賀 その国内現存作品について (兼重 護) ○ 文政九年シーボルトの江戸長期滞在計画について (梶 輝行) ○ ブランデンシュタイン家資料に見られるシーボルト事件に関する日記について (宮坂正英) ○ 資料紹介 「遊女論」について (徳永宏) ○ 関口家ハインリッヒ資料の研究 (3) (関口忠志)	完売
2	1992年	○ フィリップ・フランツ・フォン・ジーボルトの幼年時代及び青年時代 1796年-1820年 (ヴェルナー・デッテルバッハ、訳・宮坂正英) ○ シーボルトと長崎の植物 (山田重人) ○ Ph・Fr・フォン・シーボルト晩年の書翰 (2) (石山禎一) ○ 武田氏旧蔵『高橋一件』について-他のシーボルト事件関係史料との比較を中心に- (沓沢宣賢) ○ ブランデンシュタイン=ツェッペリン家資料にみる『日本』出版の過程と其扇・いね宛シーボルト書簡 (福井英俊) ○ 関口家ハインリッヒ資料の研究 (2) (関口忠志)	完売
創刊号	1991年	○ 「喬梁連累公案」について (中西啓) ○ ブランデンシュタイン城の「三人の日本シーボルト」の遺産 (C・フォン・ブランデンシュタイン・ツェッペリン) ○ オランダ商館長とシーボルトの江戸参府 (片桐一男) ○ Ph. Fr. フォン・シーボルト晩年の書翰 (1) (石山禎一) ○ シーボルトの日記「漁村小瀬戸への調査の旅 (草稿)」について (宮坂正英) ○ ブランデンシュタイン家文書 (Brandenstein-Archiv) 史料 (ウド・バイライス、宮坂正英) ○ ハインリッヒ・フォン・シーボルト (クライナー・ヨーゼフ) ○ 関口家ハインリッヒ資料の研究 (1) (関口忠志) ○ 楠本・米山家資料にみる楠本いねの足跡 (福井英俊)	完売